

第54回 全日本聾教育研究大会

埼玉大会

大会要項



令和2年

10月8日(木)～9日(金)



埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園

埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園

目 次

挨拶	全日本聾教育研究会会長（愛知県立岡崎聾学校長）	鹿嶋 浩	… 1
	埼玉大会実行委員長（埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園校長）	桑原 智子	… 2
祝辞	文部科学省初等中等教育局特別支援教育課特別支援教育調査官		
		庄司 美千代	… 3
	埼玉県教育委員会教育長	高田 直芳	… 4
	公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会会長	山東 昭子	… 5
1	大会要項		… 6
2	大会日程		… 8
3	公開授業・指定授業一覧		… 9
	埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 公開授業・指定授業		
	埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 公開授業・指定授業		
4	授業研究分科会一覧		… 1 2
	10月8日（木）幼稚部・小学部・中学部・高等部・専攻科・重複部		
	10月9日（金）寄宿舎		
5	研究協議分科会（主題・主題設定の理由・発表順等）一覧		… 1 5
6	記念講演		… 4 3
7	第55回全日本聾教育研究大会（島根大会）のご案内		… 4 3
8	埼玉大会事務局からのお願い		… 4 4
9	参加者数一覧		… 4 6
10	来賓・助言者・参加校等一覧		… 4 7
11	大会役員一覧		… 5 6

挨拶

全日本聾教育研究会
会長 鹿嶋 浩
(愛知県立岡崎聾学校長)

第54回全日本聾教育研究大会が、日本国中がコロナ禍の中で、全国各地から多くの先生方のご参加をいただき、ここ埼玉の地において盛大に開催できますことは、全日本聾教育研究会として大きな喜びであります。

本大会の開催にあたり、主管校の埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園、坂戸ろう学園の教職員の皆様をはじめ、協力校の関東地区22の聾学校の教職員の皆様の周到的な準備に、心より御礼申し上げます。

特に、今大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のために、Web会議システムの利用、会員参集型から各校における参加型、記念講演や授業公開はライブ配信やオンデマンド配信での提供等、大きく開催方法を変更することによって、本日の開催を迎えております。新型コロナウイルス感染症という前代未聞の状況下において、実行委員長の桑原校長先生のリーダーシップの下、関東地区24の聾学校が一丸となり、新しい様式での大会開催案を提案され、本日の開催に至ったことは、一言で表現できない程の重みと価値があり、改めて心から敬意を表するものであります。

さて、本大会の主題は、「自ら学びを深め、たくましく生きる力を育むろう教育」です。社会の変化に対応し、人生の幅を広げるため、問題に直面した時、自ら対処するために、「学ぶ力」「生きる力」を育むことが必要である、そのためにはどうしたらよいか、聴覚障害児に対する教育の課題や成果、聴覚障害教育の専門性と新たな展望について考えます。記念講演は、東京学芸大学教授 濱田豊彦先生に、「ろう教育で大ボラを吹く」と題してご講演をいただきます。濱田先生のろう教育への強い思いがお聞きできるのではないかと今から「大ボラ」の中身が楽しみでなりません。さらに、本研究会が大切にしてきた当日の授業（指定授業）も視聴でき、授業研究分科会では質疑応答や意見交換を行います。聴覚障害教育の中心となって研究並びに実践をされている助言者から、授業改善や今後の聴覚障害教育に資する貴重なご指導やご助言をいただけることと確信しています。

本大会が教育実践を互いに学び合う基本理念に基づき、全国の聴覚障害教育に携わる教職員の多様な教育実践とその成果並びに課題について、建設的かつ活発な意見・情報交換を行い、互いに研鑽を深められる研究会になることを切に願っております。

最後に、本大会の開催に当たりご後援いただきました文部科学省をはじめ、大会の開催のためにご尽力いただきました埼玉県教育委員会、さいたま市教育委員会、坂戸市教育委員会及び関係諸団体に改めて厚く御礼申し上げますとともに、本大会にご出席いただきましたご来賓の方々、会員の皆様に心から感謝申し上げます、挨拶とさせていただきます。

挨拶

第54回全日本聾教育研究大会（埼玉大会）実行委員会

実行委員長 桑原 智子

（埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園校長）

第54回全日本聾教育研究大会埼玉大会にご参会くださりありがとうございます。ご来賓として文部科学省はじめ、埼玉県教育委員会、関係する皆様をお迎えし、また関係機関からご後援・ご協賛を賜り、Web開催に変更して開催できますこと、実行委員長として心より感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大の影響を大きく受けましたが、記念講演、授業研究分科会、研究協議分科会を縮小せず進めましたところ、約1,500名が参加する大会へと変化を遂げることができました。授業研究分科会は7分科会、研究協議分科会は14分科会設定し、参加者の様々なニーズに応えることができ、さらにWeb開催に変更した結果、全国の会員が参加しやすくなりましたことも本大会の魅力となっております。

主管校である大宮ろう学園と坂戸ろう学園が、新たな挑戦に立ち向かうことができましたのは、埼玉だからこそできる大会を目指した表れでもあります。特に、全国各地区との接続練習において会員の皆様と繋がることができ、研究体制に変革をもたらすことができると実感できましたことが大きな励みとなり、今日を迎えております。

大会主題は、「自ら学びを深め、たくましく生きる力を育むろう教育」です。3年間、助言者から専門性の高い、熱心な指導を受けてまいりました。この場をお借りして、関係する皆様にご支援をいただきましたこと御礼申し上げます。大会直前とはなりますが、各校に「研究のまとめ」を送信しておりますので、どうぞご覧ください。埼玉県は幼児児童生徒数に恵まれ、大宮ろう学園は175名、坂戸ろう学園は96名、多様な集団活動が設定できる特徴があります。自ら学びを深めるために工夫した授業づくりやたくましく生きる力を身に付けるための教育実践を、授業研究分科会を通じてお伝えしたいと思っておりますので、忌憚のないご意見をいただければ幸いです。

結びに、今日に至るまで、オンライン大会経験者やICT専門家から何度も指導助言をいただき、改善を重ねてまいりました。そして、全国聾学校長の皆様、関東地区聾学校及び聴覚障害教育に携わる皆様のご理解とご協力を得て、専門性の高い研究レポート発表や授業動画の配信も実現できました。本大会を通じて、全国の会員が情報共有及び意見交換を活発に行い、聴覚障害教育における専門性の共有、継承、発展が図られますことを祈念し、挨拶といたします。

祝 辞

文部科学省初等中等教育局特別支援教育課
特別支援教育調査官 庄司 美千代

第54回全日本聾教育研究大会埼玉大会が、埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園、埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園を主管校として開催されますことを心よりお喜び申し上げます。

全国の特別支援学校（聴覚障害）におかれましては、新型コロナウイルス感染症の流行拡大による学校の臨時休業や感染防止に留意しながらの学校再開など、これまで経験したことの無い事態に向き合いながら子供たちの教育にあたっておられることに心より感謝申し上げます。

このような状況下で、本大会の開催方法を動画配信やWeb会議システムなどの活用に変更し、授業研究分科会や研究協議分科会や記念講演が予定通り開催されることとなりました。多くの研究会が中止を余儀なくされている中、ICTを活用した開催方法により大変多くの参加申込があったことは、まさに「ピンチはチャンス」にしてくださった主管校を始めとする関係の皆様のご尽力によるものと思います。

本大会は、「自ら学びを深め、たくましく生きる力を育むろう教育」をテーマとして開催されます。大会テーマに込められた子供の主体性を伸長すること、既習の知識や技能などを広げ深めること、学習の基盤となる言語能力や情報活用能力の育成、たくましさや粘り強く取り組む態度の育成などは、新しい学習指導要領等で重視されており、これからの社会を担う子供たちに必要な資質・能力を育成する上で大変意義深いものと考えます。

これまでとは異なるICTを活用した開催となりますが、本大会を通して、子供の実態の捉え方や指導の意図、学習や調査の結果に対する解釈や成果をもたらした要因などについて、子供の発達を見通しながら率直に議論し合うことが、専門性の継承・共有につながるものと考えます。対面での開催ではないからこそ、授業や研究に対し「自分はどのように考えるか」、「自分は何を学んだか」、「自分ならどのように実践するか」といった意見を各参加者が積極的に出し合い、聴覚障害教育として継承・発展すべきことを共有する機会となることをご期待申し上げます。

結びとなりますが、本大会の開催準備に御尽力された主管校はじめ関東地区や関係の皆様は厚く御礼申し上げますとともに、全日本聾教育研究会のますますの御発展と会員の皆様の御活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

祝 辞

埼玉県教育委員会教育長 高田 直芳

第54回全日本聾教育研究大会埼玉大会が、全国の聴覚障害教育にかかわる大変多くの方に御参加いただき、インターネットで開催されますことに心からお喜びを申し上げます。

本研究大会に参加される皆様におかれましては、日頃から聴覚障害教育の発展・充実のため、多大なる御尽力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。また、全日本聾教育研究会におかれましては、昭和41年の発足以来、聴覚障害教育の振興・発展のため精力的な活動をなされているとともに、このように全国規模で教育実践を共有されますことに深く敬意を表する次第です。

さて、埼玉県においては、2校のろう学園が聴覚障害教育の伝統の更なる発展に取り組んでいます。例えば、学習用グループウェアによる学習課題の配布や音声テキスト変換アプリケーションの導入、手話通訳士資格の教員を配置するなど、円滑なコミュニケーションや情報保障環境の整備を行っております。

埼玉県教育委員会では、国のGIGAスクール構想を加速させ、県立学校に大容量回線を導入いたします。また、BYODを含めた一人一台のタブレット端末の整備や家庭学習のための通信機器の整備支援を進めることで、誰一人取り残されることのない学びの実現と災害時でも途切れることのない学習保障の実現を目指しております。

本研究大会は、「自ら学びを深め、たくましく生きる力を育むろう教育」との大会主題の下、2日間に渡って各分科会でそれぞれ協議を深めていただく大変貴重な機会となります。本研究大会の取組が聴覚障害のある幼児児童生徒の進路実現や社会で自らの能力を発揮できる聴覚障害者の育成に大いに生かされることを期待いたします。

結びに、本研究大会の開催に御尽力いただきました皆様に深く感謝を申し上げますとともに、全国各地で聴覚障害教育に熱心に取り組まれている皆様のますますの御発展と御健勝を御祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

祝 辞

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会
会長 山東 昭子

公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会の諸事業の実施につきまして、全国の特別支援学校(聴覚障害)・聾学校(以下聾学校)の皆さま方のご理解とご協力並びにご支援をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

このたび令和となって2回目の第54回全日本聾教育研究大会が、ここ埼玉県さいたま市および坂戸市の地で、埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園及び坂戸ろう学園を主管校として開催されますことに心よりお祝い申し上げます。

今大会の大会主題は、「自ら学びを深め、たくましく生きる力を育むろう教育」です。今年は、3月から全国で、新型コロナウイルスが広がり、感染防止のための開催方法を何度も会議を重ねて検討してきたと聞いております。今年度は、会員一人一人が顔を直接合わせての研究会は出来ませんが、リモートアクセスを通して全国各地の各聾学校と会場校とをウェブで結んで開催に漕ぎ着けました。本当に大変だったと思います。社会はこの状況の中で大きく変わり、働き方、生き方も選択を考えなくてはなりません。こうした中、これからの子供達は、情報を早く探し、深く調べ、そして正しい判断力の中で情報を活用し、よりよい選択を迫られることになりそうです。

生きる力を育むことはこれまで何度となく叫ばれてきましたが、現在の聾学校を取り巻く状況の変化はこれまで以上に速く、変化することを考えていかなければなりません。社会の中で、どう生きていくのか賢さと本当の意味で学びを続けなければならない時代に移行しつつあります。いずれにしても聾学校は多様な教育的ニーズに対応しながら変化の激しい社会の中で、一人一人の子供たちがたくましく生き抜いていく資質・能力を育むことが求められています。

当協会は創立以来89年を迎えました。毎年行っている事業が今年は、いくつも出来ないという大変な事態になってしまいました。このような中、公益財団法人JKAの競輪公益資金による補助事業として、FM補聴システムの無償貸与事業を実施し、合奏コンクール、聴覚障害児を育てたお母さんをたたえる会は、開催する計画です。今後も聴覚障害教育の一層の充実・発展・振興を図ってまいります。皆様方の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

結びになりますが、埼玉大会の開催にあたり、ご尽力されました皆様方に深く敬意を表しますと共に、聴覚障害教育の充実に向け、全日本聾教育研究会の益々のご発展と会員の皆様方のご健勝とご活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。

1 大会要項

大会名称 第54回全日本聾教育研究大会（埼玉大会）

大会主題 「自ら学びを深め、たくましく生きる力を育むろう教育」

（主題設定の理由）

社会の変化に対応し、人生の幅を広げるため、問題に直面したとき自ら対処するために、「学ぶ力」「生きる力」を育むことが必要である。そのためにはどうしたらよいか、聴覚障害児に対する教育の課題や成果、聴覚障害教育の専門性と新たな展望について考えていきたい。

多様化し変化の激しい社会の中で、より良く生きていくためには、学校で身につけた知識や技能だけでは十分ではない。自ら必要な情報を取捨選択し活用して新しいことを学んだり、これまでの知識や技能を学び直し、深めたりすることが必要である。また、学ぶことは、その人の生き方の幅を広げ、豊かにすることでもあろう。学校教育では、子どもたちに知識や技能を教えるだけではなく、自ら「学び」を広げ、深めることができる力を育むことが求められている。現在では、ICTなど自ら学ぶことができる技術が普及し、一人ひとりが自分なりの「学び」を広げたり、深めたりするための環境が整いつつあるのは喜ばしいことである。しかしそれらを利用するためのリテラシーや基本的な言語力・学力については、今も多くの課題が見受けられる。

また、現実社会で生きていくためには「学び」に加えて「生きる力」も重要になってくるであろう。特に聴覚障害児にとっては、聞こえない、聞こえにくいために直面するさまざまな生き難さや困難があるために、それらの課題に自ら対処していける力が一層必要になってくる。「生きる力」を育むためには、自ら思考・判断・表現

（行動）できるような主体性、自分を大切に自己認識・障害認識、人間関係を調整できる社会性、環境をより良くしていくエンパワーメントの力などの資質・能力や意志を育てていく必要があると考えられる。「生きる力」は一人ひとりの「生き方」にも深く関係するものであり、その人らしい「生き方」についても考えたい。しかし「生きる力」についてもろう学校の少人数化により、経験やコミュニケーションの幅が狭められるという困難な状況も見受けられる。

このような課題や困難な状況にどう対応していったらよいのか。そのためにはこれまでのろう教育の専門性を大切にしながら地道な努力とともに、学びの個別化やテクノロジーの活用、共同学習など集団を広げての活動などの新たな構想を展望することも必要になってくるのではないかと思われる。

「学びを深め、生きる力を育む」ためのろう教育の伝統や専門性、そして新たな展望を考えていくために本主題を設定した。

- 会 期** 令和2年10月8日(木)・9日(金)【2日間】
- 会 場** 埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園
〒331-0813 埼玉県さいたま市北区植竹町2-68
TEL 048(663)7525 FAX 048(660)1906
埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園
〒350-0221 埼玉県坂戸市鎌倉町14-1
TEL 049(281)0174 FAX 049(283)9899
- 主 催** 全日本聾教育研究会 関東地区聾教育研究会
- 主 管 校** 埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園
- 協 力 校** 茨城県立水戸聾学校 茨城県立霞ヶ浦聾学校 栃木県立聾学校 群馬県立聾学校
千葉県立千葉聾学校 筑波大学附属聴覚特別支援学校 東京都立大塚ろう学校
東京都立立川ろう学校 東京都立葛飾ろう学校 東京都立中央ろう学校
明晴学園 日本聾話学校 横浜市立ろう特別支援学校 横須賀市立ろう学校
川崎市立聾学校 神奈川県立平塚ろう学校 山梨県立ろう学校
長野県長野ろう学校 長野県松本ろう学校 静岡県立静岡聴覚特別支援学校
静岡県立沼津聴覚特別支援学校 静岡県立浜松聴覚特別支援学校
- 協 賛** 小川再治研究協賛会 公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会
公益財団法人日本教育公務員弘済会埼玉支部
- 後 援** 文部科学省 埼玉県教育委員会 さいたま市教育委員会 坂戸市教育委員会
全国聾学校長会 全国聾学校教頭会 全国特別支援学校長会
関東地区聾学校長会 関東地区聾学校教頭会 埼玉県特別支援学校長会
全国ろう学校PTA連合会 全国公立学校難聴・言語障害教育研究協議会
一般社団法人埼玉県聴覚障害者協会

2 大会日程

第1日目[10月8日(木)]

ライブ配信時間	配信場所 (大宮ろう学園)	配信場所 (坂戸ろう学園)
10:30～12:00	授業研究分科会 ～専攻科～	
13:00～15:00	研究協議分科会【第1部】 ① 早期教育Ⅰ (乳幼児) ③ 教科学習と学ぶ力 (小学部) ⑩ 重複障害教育	研究協議分科会【第1部】 ④ 教科指導(中・高文系) ⑧ 自立活動Ⅰ (障害認識・コミュニケーション) ⑬ 関係諸機関との連携、センター的機能
15:30～17:00	授業研究分科会 ～幼稚部～ ～小学部～ ～重複部～	授業研究分科会 ～中学部～ ～高等部～

第2日目[10月9日(金)]

ライブ配信時間	配信場所 (大宮ろう学園)	配信場所 (坂戸ろう学園)
10:30～12:00	授業研究分科会 ～寄宿部～	
13:00～15:00	研究協議分科会【第2部】 ② 早期教育Ⅱ (幼稚部) ⑥ 教科指導(実技系) ⑪ 寄宿舎教育 ⑭ 発達障害を併せ有する聴覚障害児に対する支援	研究協議分科会【第2部】 ⑤ 教科指導(中・高理系) ⑦ 言語力向上 ⑨ 自立活動Ⅱ(聴覚活用、発音・発語指導、補聴機器) ⑫ キャリア教育・卒業後の進路
15:30～17:00	記念講演	

- ※ Zoomの事前登録後に自動送信される承認メールに記載されているURL及びパスワードを使って当日ご参加ください。
- ※ 事前登録をしていないと当日参加できませんので、速やかに事前登録を済ませていただきますようお願いいたします)

3 公開授業・指定授業一覧

大宮ろう学園

【公開授業】

< 中学部 >

学年	教科・領域	単元・題材、主題名	授業者
1年	道徳	日曜日の朝に	川島 祐太
2年	社会	鎌倉幕府の成立	石井 達治
3年	理科	運動とエネルギー	中越 健太

< 高等部 >

コース等・学年	教科・領域	単元・題材名	授業者
普通科1年	外国語(英語)	Lesson2 My Favorite Hero	田中 桂子
産業工芸科2年	数 学	集合と要素の個数	富山 達也
産業工芸科2年	工 業	解体作業	菅波 啓樹 矢野目 穂広
生活デザイン科3年	家 庭	検定動画の作成	高橋 さおり
高等部1・3年	保 健 体 育	体づくり運動	伏見 千春 江原 健次 野村 将也

【指定授業】

< 幼稚部 >

学年	教科・領域	活動名	指導者
全体 (3・4・5歳児)	健 康 人 間 関 係 環 境 表 現 言 葉	好きな遊び	丸山 紗矢香 山崎 宏 平岡 歩子 市川 敏 阿部 裕子 戸田 康之 永井 好子 杉野 佳子 西口 麻子 加藤 慶子 後藤 かおり 佐藤 ゆずか 網野 愛子 大塚 旭菜 中村 志乃

< 小学部 >

学年	教科・領域	単元・教材名	指導者
4年	国 語	場面の様子をくらべて読み、感想を書こう 「一つの花」	齋藤 愛美
6年	国 語	筆者の考えを読み取ろう 「大切な人と深くつながるために」	五嶋 典子

<重複部>

学年	教科・領域	主題名	指導者
小学部3年 小学部5年	自立活動	さんすう屋さん	岸下 遥子 渡辺 泰生 須貝 亮英 佐藤 純子 山田 香織 永山 宏平 丸山 和美 浅井 勇介 諏佐 あゆみ 井上 慶 藤井 裕子 三田村 美香 中山 幸生 磯山 宜央 川端 麗美
中学部3年	自立活動	頼んでいいですか	森泉 たか子 秋山 幸一郎 廣瀬 道代 菊池 亨 齋藤 一治 市川 まき子 関谷 雅之
高等部3年	自立活動	看板作り	野澤 寛之 桜井 優実

<専攻科>

学年	領域	主題名	指導者
専攻科1・2年	自立活動	SST「遅刻したとき」	黒須 浩一

坂戸ろう学園

【公開授業】

<幼稚部>

学年	教科・領域	活動名	授業者
3歳児	健康	学年活動「ふうせんバレー」	川畑 賢司
4歳児	健康 人間関係 言葉 表現	1日の生活	町田 雅代
5歳児	言葉	話し合い活動 「好きな動物を伝えよう」	小川 香
全体 (3・4・5歳児)	健康 人間関係 環境 言葉 表現	自由遊び	川畑 賢司 廣瀬 奈津子 町田 雅代 勝野 崇介 小川 香 池田 早希

<小学部>

学年	教科・領域	単元・教材名	授業者
2年	自立活動	ことばビンゴ	福島 和子 吉村 明香
5年	国語	文章の要旨をとらえ、自分の考えを発表しよう	永野 太久
6年	算数	分数のわり算を考えよう	秋葉 信男

<重複部>

学年	教科・領域	単元・題材名	指導者
小学部1年	国語	身近な物を手話で楽しく表現しよう 平仮名を書く練習をしよう	中野 杏美
中学部・高等部	自立活動	コロナウイルスや暑さから身を守ろう	岩田 恵子 野澤 博子 平山 彩美

【指定授業】

<中学部>

学年	教科・領域	単元名	授業者
3年	数学	相似な図形	沼倉 千紘

<高等部>

学年	教科・領域	単元名	授業者
1年	総合的な探究の時間	『ろうの先輩』の姿から将来を考える	黒木 真有美 白井 敏子 山本 純人

※ 公開授業・指定授業動画の視聴期間は10月7日（水）までとなっております。

※ 各所属長に送信したパスワードを使ってご視聴ください。

4 授業研究分科会一覧

幼稚部 (10月8日(木) 15:30~17:00)

担 当	埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園		
研究主題	自ら遊び、自ら学ぶ“ろう保育”を目指して		
助言者	元筑波技術大学 准教授 新井 孝昭 氏		
司 会	: 戸田 康之		
授業者	: 永井 好子 市川 敏 網野 愛子 加藤 慶子		
学部概要説明	: 無し (オンデマンド配信をご覧ください)		
記 録	西口 麻子 丸山 紗矢香	Zoom担当	山崎 宏 後藤 かおり 平岡 歩子 阿部 裕子
情報保障	あり	UDトーク	中村 志乃 大塚 旭菜 廣瀬 知子

小学部 (10月8日(木) 15:30~17:00)

担 当	埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園		
研究主題	日本語を大切にした分かる授業づくり		
助言者	筑波技術大学 教授 長南 浩人 氏		
司 会	: 牛山 和彦		
授業者	: 齋藤 愛美 五嶋 典子		
学部概要説明	: 大塚 めぐみ (オンデマンド配信もご覧ください)		
記 録	西片 葉子 藤原 志津子	Zoom担当	藤原 裕樹 須貝 亮英 本田 結花 金井 祐子
情報保障	あり	UDトーク	蜂須 麻矢 加賀谷 茜音 嶋 久美子 宗田 光博

中学部 (10月8日(木) 15:30~17:00)

担 当	埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園		
研究主題	【坂戸】生徒一人ひとりが主体的に取り組める授業づくり 【大宮】自立に向けた生徒指導、学習指導のあり方		
助言者	宮城教育大学 准教授 松崎 丈 氏		
司 会	: 阿部 浩之		
授業者	: 沼倉 千紘		
学部概要説明	: 無し (オンデマンド配信をご覧ください)		
説明者	: 【坂戸】野澤 博子 【大宮】松村 佳実		
記 録	五十嵐 滝 川邊 万里子 竹本 夏菜	Zoom担当	石川 祐太 大澤 真也 桑田 弥生 角 有利香 川島 祐太 森本 真敏 中越 健太
情報保障	あり	UDトーク	小池 里佳 島田 博光 野澤 真由美 手塚 勇一

高等部（10月8日（木）15：30～17：00）

担 当	埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園		
研究主題	【坂戸】様々な体験を通じて、自ら学ぶ力を育てる 【大宮】社会自立に向けて主体的に学ぶ力を育てる		
助言者	亜細亜大学 客員准教授 橋本 一郎 氏		
司 会	：長濱奈津美		
授業者	：黒木真有美		
学部概要説明	【坂戸】宮本寿美子 松本 秀 【大宮】川島 静恵 (オンデマンド配信もご覧ください)		
記 録	永田 恵 佐藤 知子	Zoom担当	川畑 賢司 鈴木 正 永田 礼恵 廣瀬 彩奈 鈴木 慎一郎
情報保障	あり	UDトーク	山本 純人 川口 真実 磯山 雅一 田中 はる奈

専攻科（10月8日（木）10：30～12：00）

担 当	埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園		
研究主題	SSTの取組を通じて、より良い学習態度の育成		
助言者	日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会 副会長 舘脇 千春 氏		
司 会	：中村 一幾		
授業者	：黒須 浩一		
学部概要説明	：黒須 浩一		
記 録	金田 悦子 岡本 美帆	Zoom担当	河合 力 畑崎 勝 高尾 広子
情報保障	あり	UDトーク	中山 康太郎 太田 歩美 宗田 光博

重複部（10月8日（木）15：30～17：00）

担 当	埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園		
研究主題	【大宮】コミュニケーションの力を高める 【坂戸】ろう重複の児童生徒に付けたい生きる力		
助言者	宮城教育大学 教授 菅井 裕行 氏		
司 会	：永山 宏平		
授業者	：浅井 勇介 磯山 宜央 廣瀬 道代 野澤 寛之		
学部概要説明	【大宮】無し（オンデマンド配信をご覧ください） 【坂戸】平山 彩美 金子 薫		
記 録	齋藤 一治 三田村美香	Zoom担当	菊池 亨 川端 麗美 小松 孝兆
情報保障	あり	UDトーク	山田 香織 市川 まき子 岸下 遥子 中山 幸生

寄宿舎（10月9日（金）10：30～12：00）

担 当	埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園		
研究主題	寄宿舎で育む生活力		
助言者	國學院大学講師 浦和大学講師 東京愛育苑金町学園児童指導員 森本 行雄 氏		
司 会	：岡安 薫		
授業者	：無し		
	学部概要説明：無し（オンデマンド配信をご覧ください）		
記 録	大野 篤人	Zoom担当	小暮 利征 中山 美奈子 石松 誠 奈良岡 里奈
情報保障	あり	UDトーク	清波 裕子 高橋 美香

※各授業研究分科会のUDトーク用QRコード

分科会での発言内容が文字変換されたものが見られます。

質問、意見等発言される時にUDトークの発話ボタン（「タップして話す」が書かれている赤いボタン）を押して話していただくとUDトークの文字変換がスムーズになります。

（UDトークアプリのダウンロードが必要になります <https://UDtalk.jp/> ）



幼稚園部



小学部



中学部



高等部



専攻科



重複部



寄宿舎

5 研究協議分科会一覧

10月8日(木) 13:00-15:00 [配信会場: 大宮ろう学園]

第1分科会 (早期教育 I (乳幼児))

【協議主題】 豊かなコミュニケーションを育み、主体的な子育て支援の在り方

【主題設定の理由】 乳幼児個々の発達に応じた活動を行うなかで、豊かなコミュニケーションを育み保護者・家族が前向きに子育てしていけるための支援の在り方について研究する。
--

助言者	信州大学 教授 庄司 和史 氏		
運営責任者 (司会)	埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 (責任者) 廣瀬 知子 (補佐) 渡辺 千枝		
記録 (関聾研協力校)	東京都立大塚ろう学校 深澤 久子 神谷 瑠美		
Zoom担当	中村 一幾 阿部 裕子 後藤 かおり		
情報保障	あり	UDトーク	西口 麻子 平岡 歩子 川邊 万里子 根岸 克成

発表順	① 北海道立札幌聾学校 手塚 清貴 親子支援と活動内容の充実のために
	② 埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 伊藤 美和 豊かなコミュニケーションを育み主体的な子育てをささえて
	② 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 野澤 真由美 集団活動を通して育ち合うひよこ組 ～集団活動を通して支援のあり方を考える～
	③ 明晴学園 池田 亜希子 遊びを深めて概念を育てる ～「かずの概念」と「植物(やさい)の概念」～
	⑤ 奈良県立ろう学校 吉田 智美 乳幼児期における、個別指導場面での保護者支援 ～0歳児の個別指導について考える～
討議の柱	・保護者が主体的に子育てをしていくための支援の在り方について

進行 **レポート発表は事前オンデマンド配信を視聴願います。**

時間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:05	開会の挨拶、助言者・司会・記録者等紹介 諸連絡、進行の説明
13:05～13:15	発表者全員への質問に対する回答（司会が進行）
13:15～13:25	レポート①に関する質問への回答（札幌聾学校 手塚 清貴）
13:25～13:35	レポート②に関する質問への回答（大宮ろう学園 伊藤 美和）
13:35～13:45	レポート③に関する質問への回答（坂戸ろう学園 野澤 真由美）
13:45～13:55	レポート④に関する質問への回答（明晴学園 池田 亜希子）
13:55～14:05	レポート⑤に関する質問への回答（奈良県立ろう学校 吉田 智美）
14:05～14:15	休憩
14:15～14:40	研究協議 「保護者が主体的に子育てをしていくための支援の在り方について」
14:40～14:55	助言者まとめ



第1分科会 UDトーク QRコード

10月9日（金） 13：00－15：00〔配信会場：大宮ろう学園〕

第2分科会（ 早期教育Ⅱ（幼稚部） ）

【協議主題】

思考力や判断力を育て、コミュニケーションの力を伸ばすための幼児期の指導の在り方

【主題設定の理由】

幼児期におけるコミュニケーションの力は、遊びや環境の中で育まれる。思考力や判断力、それらを総合的に身につけるための幼稚部段階の指導・支援の在り方について研究する。

助 言 者	公益財団法人 聴覚障害者教育福祉協会 事務局長 松本 末男氏		
運 営 責 任 者 (司 会)	埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 (責任者) 丸山 紗矢香		
記 録 (関聾研協力校)	茨城県立霞ヶ浦聾学校 落合 奈美子 松井 藍子		
Z o o m 担 当	中越 健太 市川 敏 永井 好子 網野 愛子		
情 報 保 障	あり	U D ト ー ク	中村 志乃 大塚 旭菜 平岡 歩子 江藤 千恵子

発表順	① 愛知県立岡崎聾学校 原 和大 「話したい」「聞きたい」気持ちを育て、伝え合う喜びを味わうための指導・支援
	② 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 池田 早希 自ら学びを深め、たくましく生きる力を育むろう教育 ～あそびを通して、たくましく生きるろう保育～
討議の柱	レポート、討議の柱の視点 ・子供同士の通じ合いをどう確かなものにするのか。（ことばの通じ合い） ・子供の心が開いて、自発的に楽しんで参加する保育の在り方 ・コロナ対応を如何にして実践を進めるか

進行 **レポート発表は事前オンデマンド配信を視聴願います。**

時 間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:05	開会の挨拶、助言者・司会・記録者等紹介 諸連絡、進行の説明
13:05～13:20	レポート①に対する質疑応答（岡崎聾学校 原 和大）
13:20～13:35	レポート①に対する指導者指導講評
13:35～13:50	レポート②に対する質疑応答（坂戸ろう学園 池田 早希）
13:50～14:05	レポート②に対する指導者指導講評
14:05～14:15	休憩
14:15～14:45	研究協議
14:45～14:55	助言者まとめ
14:55～15:00	諸連絡・閉会の言葉



第2分科会 UDトーク QRコード

10月8日（木） 13：00－15：00〔配信会場：大宮ろう学園〕

第3分科会（ 教科学習と学ぶ力（小学部） ）

【協議主題】
豊かな思考力を育てるための小学部段階における教科指導の在り方と実践の工夫

【主題設定の理由】
小学部からの学習は、教科書を使った指導が始まる。それぞれの教科の理解度が他の教科の理解度に与える影響も大きく、各教科のつながりも深い。また、教科学習を念頭に置きながら、小学部段階で必要な児童の思考力・判断力・表現力を一人ひとり高めるための授業工夫や指導法について研究する。

助 言 者	筑波技術大学 教授 長南 浩人 氏		
運 営 責 任 者 (司会)	埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 (責任者) 大河内 香 (補佐) 鈴木 和		
記 録 (関聾研協力校)	千葉県立千葉聾学校 山尾 昌平 手塚 清		
Z o o m 担 当	藤原 裕樹	佐藤 美海	鈴木 慎一郎 羽諸 圭祐
情 報 保 障	あり	U D ト ー ク	三宅 歩 田中 桂子 本田 結花 加賀谷 茜音

発表順	① 東京都立大塚ろう学校 西谷 裕之 自ら切り拓く児童を育む～主体的・対話的で深い学び合いのある教育活動の実践～
	② 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 永野 太久 子どもの日本語力を伸ばすための環境づくりを授業実践に活かして
	③ 東京都立大塚ろう学校城東分教室 稲葉 啓太 学びに向かう力を育む ～児童が主体的に話し合う学習活動について考える～
	④ 北海道札幌聾学校 田中 瑞穂 読みの力を育てる指導法の研究～協同学習による学びの実践～
	⑤ 東京都立立川ろう学校 佐野 伸 主体的・対話的な深い学びのある授業をめざして～小学部算数グループのOJTによる授業改善の取り組み～
	⑥ 愛知県立千種聾学校 吉村 雄太 情報活用能力、プログラミング的思考の育成を目指した指導の在り方について
討議の柱	<ul style="list-style-type: none"> ・教科学習における思考力・判断力・表現力を高めるための授業の工夫や指導法について ・学びに向かう力を育てる指導について

進行 **レポート発表は事前オンデマンド配信を視聴願います。**

時 間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:05	開会の挨拶、助言者・司会・記録者等紹介 諸連絡、進行の説明
13:05～14:05	1校ずつ①～③の順に進める。(各校10分までとする) ①発表者よりコメント(事前に寄せられた質問に答える) ②質疑応答 ③助言者より講評
14:05～14:15	全体に対して質疑応答
14:15～14:25	休憩
14:25～14:55	助言者まとめ
14:55～15:00	諸連絡・閉会の言葉



第3分科会 UDトーク QRコード

10月8日(木) 13:00-15:00 [配信会場: 坂戸ろう学園]

第4分科会 (教科指導 (中・高文系))

【協議主題】

生きる力や社会的自立の基盤となる実践や指導法の工夫

【主題設定の理由】

国語科や社会科、英語科等の学習において、社会的自立に必要な知識を習得し、主体的に解決できる態度を育成するための実践や指導法について研究する

助言者	大阪ろう難聴就労支援センター 理事長 前田 浩 氏		
運営責任者 (司会)	埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 (責任者) 大澤 真也 (補佐) 西村 和幸		
記録 (関豊研協力校)	筑波大学附属聴覚特別支援学校 廣瀬 由美 藤本 裕美子		
Zoom担当	後藤 優 清水 直樹 前田 真紀		
情報保障	あり	UDトーク	廣瀬 奈津子 池田 早希 伊藤 夕貴子 志水 裕美

発表順	① 大阪府立中央聴覚支援学校 栗田 瑞希 明石 慈英 富川 裕子 深い学びのための対話的授業の効果
	② 愛知県立岡崎聾学校 菅沼 雅子 「分かる授業」づくりを目指して ～学習した内容を活用する力を育むための英語の授業づくり～
	③ 筑波大学附属聴覚特別支援学校 松本 邦子 英語の授業におけるICTを活用した主体的・対話的で深い学びを実現する 授業実践 ～文部科学省特別支援教育に関する実践研究充実事業(新学習 指導要領に向けた実践研究) 報告～
討議の柱	主体的・対話的で深い学びの授業づくりと課題

進行 **レポート発表は事前オンデマンド配信を視聴願います。**

時 間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:05	開会の挨拶、助言者・司会・記録等紹介、諸連絡、進行の説明
13:05～13:25	研究発表3校への質疑応答
13:25～13:55	助言者指導講評
13:55～14:05	休憩
14:05～14:15	質疑応答
14:15～14:35	研究協議
14:35～14:55	助言者まとめ
14:55～15:00	諸連絡・閉会の言葉



第4分科会 UDトーク QRコード

10月9日（金） 13：00－15：00〔配信会場：坂戸ろう学園〕

第5分科会（教科指導（中・高理系））

【協議主題】

生きる力や社会的自立の基盤となる実践や指導法の工夫

【主題設定の理由】

数学や理科等の学習において、社会的自立の基盤となる事柄の定着や主体的に探究する態度を育成するための実践や指導法について研究する。

助言者	筑波技術大学 准教授 脇中 起余子 氏		
運営責任者 (司会)	埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 (責任者) 後藤 孝志 (補佐) 沼倉 千紘		
記録 (関聾研協力校)	茨城県立水戸聾学校 倉持 靖則 飯島 友里恵		
Zoom担当	勝野 崇介 中野 杏美 平山 彩美		
情報保障	あり	UDトーク	桑田 弥生 小池 里佳 後藤 優 千本 将司

発表順	① 秋田県立聴覚支援学校 中野 あかね 自分の考えを広げ表現する生徒の育成 ～自分の考えを持ち、伝え合う数学科の授業を通して～
	② 筑波大学附属聴覚特別支援学校 西俣 稔子 資格試験対策のためのeラーニング教材の開発と実践
討議の柱	※ 2本のレポートを中心に研究協議する

進行 **レポート発表は事前オンデマンド配信を視聴願います。**

時 間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:05	開会の挨拶、助言者・司会・記録者等紹介諸連絡、進行の説明
13:10～13:55	発表者①からの質問に対する回答 研究協議「少人数の豊学校での授業の進め方について」 助言者指導講評
13:55～14:05	休憩
14:10～14:55	発表者②からの質問に対する回答 研究協議「eラーニングのメリットとデメリットについて」 助言者指導講評
14:55～15:00	諸連絡・閉会の言葉



第5分科会 UDトーク QRコード

10月9日（金） 13：00－15：00〔配信会場：大宮ろう学園〕

第6分科会（教科指導（実技系））

【協議主題】

生きる力や社会的自立の基盤となる実践や指導法の工夫

【主題設定の理由】

社会生活において、より自分らしく生きるための基盤となる「発想力」「表現力」「感受性」を育成するための実践や指導法について研究する。

助言者	帝京平成大学 教授 藤本 裕人 氏		
運営責任者 (司会)	埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 (責任者) 高橋 さおり (補佐) 對馬 隆司		
記録 (関聾研協力校)	東京都立葛飾ろう学校 管野 奈津美 及川 有理		
Zoom担当	藤原 裕樹 矢野目 穂広 渡辺 大志		
情報保障	あり	UDトーク	中山 康太郎 勝野 瞬 竹本 夏菜 菅波 啓樹

発表順	① 東京都立中央ろう学校 内田 貴博 スマホミーティングによる、情報モラル教育の実践
	② 北海道高等聾学校 桑原 一哲 思考力を深める要素を組み込んだ職業学科の授業 ～メタ情報の明示化を手立てに組み込んだ指導実践～
	③ 東京都立葛飾ろう学校 杉岡 伸作 SDGsを中心に据え、社会とのつながりを意識した学習活動の展開 ～UDトークを使用し、音声を常時文字化する環境での授業実践～
討議の柱	<ul style="list-style-type: none"> ・職業教育（情報教育）の実践や指導法の工夫 ・各校より情報交換

進行 **レポート発表は事前オンデマンド配信を視聴願います。**

時 間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:05	開会の挨拶、助言者・司会・記録者等紹介 諸連絡、進行の説明
13:05～13:50	①事前にメールで受け付けた質問に対して発表者からの回答 ②発表者より追加説明等 （①②合わせて3～5分×3人） ③助言者者講評 （10分×3人）
13:50～14:00	休憩 （主題に対する各校の実践をチャットで報告）
14:00～14:40	研究協議
14:40～14:55	助言者まとめ
14:55～15:00	諸連絡・閉会の言葉



第6分科会 UDトーク QRコード

10月9日（金） 13：00－15：00〔配信会場：坂戸ろう学園〕

第7分科会（ 言語力向上 ）

【協議主題】

多様な幼児児童生徒がいる中で、一人ひとりの言語力を向上させていくための指導の工夫

【主題設定の理由】

「言語力向上」はろう教育での大きな目標の一つであり、これまで続けてきた課題でもある。聴力、家庭の環境、認知の特性など多様な子ども達がいる。その中で視覚が優位な子、聴覚が優位な子、日本語が第一言語の子、手話が第一言語の子など、言語獲得・習得にいたる道筋もさまざまである。認識や思考を支え自ら学びを深めるための基盤としての言語力、特に学習言語の力まで身につけていくための多様な実践の在り方を研究する。

助 言 者	金沢大学 教授 武居 渡 氏		
運 営 責 任 者 (司 会)	埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 (責任者) 町田 雅代 (補佐) 志水 裕美		
記 録 (関聾研協力校)	東京都立立川ろう学校 澤 あや子 飯島 麗		
Z o o m 担 当	川畑 賢司 野澤 博子 秋葉 信男		
情 報 保 障	あり	U D ト ー ク	伊藤 夕貴子 小川 香 廣瀬 奈津子 島田 博光

発表順	① 埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 毛利 めぐみ 読解力向上を目指した自立活動の取組
	② 秋田県立聴覚支援学校 佐々木 寿子 手話を第一言語とする児童の考える力、表現する力の育成に向けた取り組み ～関わり合い、伝え合う活動を通して～
	③ 埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 戸田 康之 日本手話の言語力を高めるために ～校内における「ろう通訳」の必要性和実践から～
	④ 東京都立中央ろう学校 谷村 隆人 手話ニュースキャスターになろう！ ～手話で育む言語感覚・表現力～
討議の柱	「言語力向上のために、各校で大切にしていること また、そのための取組」

進行 レポート発表は事前オンデマンド配信を視聴願います。

時 間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:05	開会の挨拶、助言者・司会・記録者等紹介 諸連絡、進行の説明
13:05～13:15	発表者の補足説明と事前に受けた質問に対する回答 ① 大宮ろう学園 毛利 めぐみ ② 秋田県立聴覚支援学校 佐々木 寿子 ③ 大宮ろう学園 戸田 康之 ④ 東京都立中央ろう学校 谷村 隆人
13:15～13:25	
13:25～13:35	
13:35～13:45	
13:45～14:05	助言者指導講評
14:05～14:15	休憩 （指導講評に対する質問をチャットで受付）
14:15～14:40	研究協議 「言語力向上のために各校で大切にしていること また、そのための取組」 事前アンケートから取り上げ、情報交換を行う。
14:40～14:55	助言者まとめ （指導講評に対する質問への回答を含む）
14:55～15:00	諸連絡・閉会の言葉



第7分科会 UDトーク QRコード

10月8日(木) 13:00-15:00 [配信会場: 坂戸ろう学園]

第8分科会 (自立活動 I (障害認識・コミュニケーション))

【協議主題】

社会自立につながる豊かなコミュニケーション力の育成と障害認識のための支援の在り方

【主題設定の理由】

多様化し変化の激しい社会で、聴覚障害児・者が他者と協調し、自立して生活していくためには、豊かなコミュニケーション力が必要である。さまざまな状況や場面に応じて通じ合うためのスキルや、障害認識に基づいた、セルフアドボカシーやエンパワーメント等、周囲の人々や社会に対しての働きかけについての支援や指導の在り方を研究する。

助言者	亜細亜大学 客員准教授 橋本 一郎 氏		
運営責任者 (司会)	埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 (責任者) 白井 敏子 (補佐) 吉村 明香		
記録 (関聾研協力校)	川崎市立聾学校 中西 章典 西村 霞		
Zoom担当	勝野 崇介 岩附 美穂 秋葉 信男		
情報保障	あり	UDトーク	千葉 美起 室塚 美保 瀬下 萌香 樋口 洵

発表順	① 川崎市立聾学校 秋山 奈巳 赤池 里恵 「気持ちや考えを伝え合う力を育てる」指導の工夫
	② 愛知県立港特別支援学校 山下 千夏 社会自立に向けたコミュニケーションアプリの活用実践
	③ 奈良県立ろう学校 中田 晃代 ディベートを通して自己発信、コミュニケーション力の向上を目指す 授業作り～10名の事例から～
討議の柱	①コミュニケーション力を高めるための工夫 ②障害認識(自己理解・他者理解)のための支援

進行 **レポート発表は事前オンデマンド配信を視聴願います。**

時 間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:05	開会の挨拶、助言者・司会・記録者等紹介、諸連絡、進行の説明
13:05～13:35	研究発表3校からの補足説明及び事前質問に対する回答
13:35～13:50	助言者指導講評
13:50～14:00	休憩（発表者・助言者・主題に対するご意見・質問など チャットで受付）
14:00～14:10	質疑応答
14:10～14:40	研究協議
14:40～14:55	助言者まとめ
14:55～15:00	諸連絡・閉会の言葉



第8分科会 UDトーク QRコード

10月9日（金） 13：00－15：00〔配信会場：坂戸ろう学園〕

第9分科会（ 自立活動Ⅱ（聴覚活用、発音・発語指導、補聴機器） ）

【協議主題】

一人ひとりの聴力に合わせた補聴機器を活かすことを前提に、聴覚学習や発音・発語学習による日本語力向上のための自立活動の在り方

【主題設定の理由】

補聴器、補聴援助システムの技術進歩、人工内耳装用者の増加のため、今後ますます聴覚を活用した指導力が求められる。個々のニーズに合った自立活動の授業を通して、幼児児童生徒の日本語力向上を目指すと共に、生きる力を身につける教育実践について研究する。

助 言 者	同志社大学 准教授 中瀬 浩一 氏		
運 営 責 任 者 (司 会)	埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 (責任者) 城 律子 (補佐) 高橋 マサ子		
記 録 (関豊研協力校)	東京都立中央ろう学校 石川 範子 橋本 明美		
Z o o m 担 当	石川 祐太 永田 礼恵 柴崎 一馬		
情 報 保 障	あり	U D ト ー ク	野澤 真由美 千葉 美紀 諏訪部 沙姫 室塚 美保

発表順	① 横浜国立大学非常勤講師 板橋 安人 発音・発語学習の授業で何を扱うか～学習者に学ぶ～
	② 筑波大学附属聴覚特別支援学校 鎌田 ルリ子 山縣 浅日 筑波大学公開講座「聴覚障害・発音指導研修講座」 5年間の取組を振り返る
討議の柱	自立活動（発音・発語、聴覚活用）の内容について、指導体制、研修方法など情報交換する。

進行 レポート発表は事前オンデマンド配信を視聴願います。

時 間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:05	開会の挨拶、助言者・司会・記録者等紹介 諸連絡、進行の説明
13:05～13:20	発表者から発表の補足説明質疑応答 (横浜国立大学非常勤講師 板橋 安人)
13:20～13:35	発表者から発表の補足説明質疑応答 (筑波附属聴覚特別支援学校 鎌田 ルリ子 山縣 浅日)
13:35～13:50	助言者指導講評
13:50～14:00	休憩
14:10～14:40	自立活動（聴覚活用、発音・発語）の内容について情報交換
14:40～14:55	助言者まとめ
14:55～15:00	諸連絡・閉会の言葉



第9分科会 UDトーク QRコード

10月8日（木） 13：00－15：00 [配信会場：大宮ろう学園]

第10分科会（ 重複障害教育 ）

【協議主題】

個々の障害の状況や特性を考えた支援や集団を意識した教育活動の在り方

【主題設定の理由】

障害が、重度重複化・多様化する中で、さまざまな専門的知識や教育活動の充実が求められる。集団の中で児童生徒が学び合い心豊かに充実した生活を送れるよう、支援や教育活動について研究する。

助 言 者	宮城教育大学 教授 菅井 裕行 氏		
運 営 責 任 者 (司 会)	埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 (責任者) 森泉 たか子 (補佐) 熊谷 悠香		
記 録 (関聾研協力校)	横須賀市立ろう学校 井上 敦子 吉川 知彦		
Z o o m 担 当	渡辺 泰生 菊池 亨 山田 香織 佐藤 純子		
情 報 保 障	あり	U D ト ー ク	三田村 美香 藤井 裕子 諏佐 あゆみ 小松 孝兆

発 表	① 奈良県立ろう学校 小学部 木村 誠 よくわかり意欲的に学べる重複児童の授業づくり ～共に学びあえる教材（電子絵本）～
討議の柱	① レポートをもとにした質疑応答の中から抽出された、共通のカテゴリーを討議の柱とする。 ② 参加者に事前に回答いただくアンケート（日頃の実践で困っていること、疑問に思うこと、良かった実践例など）をもとに討議の柱立てをしていく。

進行 レポート発表は事前オンデマンド配信を視聴願います。

時間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:05	開会の挨拶、助言者・司会・記録者等紹介 諸連絡、進行の説明
13:05～13:40	レポート発表をもとにした協議 ①配信されたレポートに対し、事前に寄せられた質問への応答 ②レポート発表者と助言者との協議 ③②に対しての各校からの質疑応答または情報交換
13:40～13:50	助言者まとめ（前半研究協議）
13:50～14:00	休憩 ・ 後半研究協議準備
14:00～14:40	研究協議 ①前半協議で出された質疑応答の中から抽出された、課題を討議 ②参加者から事前に回収したアンケート結果より、柱立てをした討議
14:40～14:55	助言者まとめ
14:55～15:00	諸連絡・閉会の言葉



第10分科会 UDトーク QRコード

10月9日（金） 13：00－15：00〔配信会場：大宮ろう学園〕

第11分科会（ 寄宿舍教育 ）

【協議主題】

異年齢集団生活の中で生きる力を育むための寄宿舍教育の在り方

【主題設定の理由】

寄宿舍に入る幼児児童生徒は、通学の保障や生活習慣等生活力の向上と共に、集団生活における自治活動やコミュニケーションの中で、他者との関わりを学ぶことができる。そこから、社会性や主体性を身に付け、将来生きていくための支援について研究する。

助 言 者	國學院大学講師 浦和大学講師 東京愛育苑金町学園児童指導員 森本 行雄 氏		
運 営 責 任 者 (司 会)	埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 (責任者) 高橋 道代 神 真弓		
記 録 (関聾研協力校)	神奈川県立平塚ろう学校 深松 玲子 村山 なほみ		
Z o o m 担 当	河合 力 小暮 利征 奈良岡 里奈 清波 祐子		
情 報 保 障	あり	U D ト ー ク	新井 舞 丸山 和美 五十嵐 滝 齋藤 一治

発表順	① 北海道高等聾学校 菅原 敏 一人一人の可能性を引き出す指導方法・指導内容の研究 ～対話的な活動をとおり主体的な生活を送ることができる舎生を育てるための ブロックにおける取組～
	② 埼玉県特別支援学校坂戸ろう学園 橋本 晶子 たくましく生きる力を育む寄宿舍教育 ～コミュニケーションの力や心身のたくましさを育てる～
討議の柱	寄宿舍生が社会性や主体性を身に付け、行動できるようにするため、寄宿舍として支援している取り組みや指導上重視していることなど情報を提供してもらい、意見交流を図る。(自治活動や対話的な取組等)

進行 **レポート発表は事前オンデマンド配信を視聴願います。**

時間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:05	開会の挨拶、助言者・司会・記録者等紹介 諸連絡、進行の説明
13:05～13:45	北海道高等聾学校より質問等への回答、質疑応答(20分) 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園より質問等への回答、質疑応答(20分)
13:45～14:00	助言者講評
14:00～14:10	休憩
14:10～14:40	参加校の取組紹介と質疑応答
14:40～14:55	助言者まとめ
14:55～15:00	諸連絡・閉会の言葉



第11分科会 UDトーク QRコード

10月9日（金） 13：00－15：00〔配信会場：坂戸ろう学園 〕

第12分科会（ キャリア教育・卒業後の進路 ）

【協議主題】

発達段階に応じたキャリア教育の推進と卒業後の支援の在り方

【主題設定の理由】

乳幼児教育相談から高等部専攻科までそれぞれの発達段階に応じたキャリア教育をどのように推し進めるべきか、現状を報告し合いながら、ろう学校におけるキャリア教育について考える。また、ろう学校卒業後の支援について、どのような支援が必要とされるのか具体的に研究する。

助 言 者	東京聴覚障害者支援事業所 所長 矢野 耕二 氏		
運 営 責 任 者 (司 会)	埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 (責任者) 宮本 寿美子 (補佐) 伊東 亜矢子		
記 録 (関聾研協力校)	横浜市立ろう特別支援学校 吉田 純平 馬場 達雄		
Z o o m 担 当	長濱 奈津美 後藤 克彦 金子 薫		
情 報 保 障	あり	U D ト ー ク	山本 純人 白井 敏子 松本 秀 樋口 洵

発表順	① 宮城県立聴覚支援学校 菅原 宏行 学校から社会・職業への円滑な移行のための取り組み ～人間関係形成・社会形成能力の育成のために～
	② 筑波大学附属聴覚特別支援学校 内野 智仁 高等部専攻科における赤城自然園のCM動画制作を 題材とした教育実践
討議の柱	「発達段階に応じたキャリア教育の実践」 ・ろう学校の生徒を年代相応に指導するために苦勞、工夫していること ・実社会で生活するために必要だと思っていること ・小・中・高・専の縦の連携が図れているか。どのようにして連携を図っているか。

進行 **レポート発表は事前オンデマンド配信を視聴願います。**

時 間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:05	開会の挨拶、助言者・司会・記録者等紹介 諸連絡、進行の説明
13:05～13:15	宮城県立聴覚支援学校 菅原 宏行 発表動画に対する補足説明と事前説明に対する回答
13:15～13:25	筑波大学附属聴覚特別支援学校 内野 智仁 発表動画に対する補足説明
13:25～13:40	助言者指導講評
13:40～13:50	休憩 (質問などをチャットで受け付け)
13:50～14:10	質疑応答
14:10～14:40	研究協議「発達段階に応じたキャリア教育の実践」
14:40～14:55	助言者まとめ
14:55～15:00	諸連絡・閉会の言葉



第12分科会 UDトーク QRコード

10月8日(木) 13:00-15:00 [配信会場: 坂戸ろう学園]

第13分科会 (関係諸機関との連携・センター的機能)

【協議主題】

関係諸機関との連携による聴覚障害教育の充実と地域の学校への支援の在り方

【主題設定の理由】

聴覚障害児が地域でたくましく生きるための充実した支援や関係諸機関との連携、センター的機能をどのように構築していくかを研究する。

助言者	大阪教育大学教育学部 教授 井坂 行男 氏		
運営責任者 (司会)	埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 (責任者) 高波一博 (補佐) 清野 菜穂子		
記録 (関聾研協力校)	栃木県立聾学校 黒川 貴広 横田 麗美		
Zoom担当	諏訪部 沙姫 並木 利恵 松本 和久		
情報保障	あり	UDトーク	桑原 恵奈 関本 正子 岡安 寿洋 千本 将司

発表順	① 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 宇野 宏之祐 山本 晃 横倉 久 聴覚障害教育におけるセンター的機能の充実に関する研究 ～乳幼児を対象とした地域連携～
	② 沖縄県立沖縄ろう学校 宮平順子 沖縄県立沖縄ろう学校におけるセンター的機能の実践事例 ～関係図づくりからはじまる在籍校支援～
	③ 川崎市立聾学校 江守 里香 難聴理解授業～障害の社会モデルの考え方～
	④ 埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 田中 清之 瀬戸 隆太 宗田 光博 太田 歩美 地域とつながるろう学校～難聴児の居場所作り～
	⑤ 埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園 後藤 克彦 地域でたくましく生きるために～自己理解を深める取り組み～
討議の柱	ろう学校のセンター的機能を充実させるために～各校の実践から考える～

進行 **レポーター発表は事前オンデマンド配信を視聴願います。**

時 間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:05	開会の挨拶、助言者・司会・記録者等紹介 諸連絡、進行の説明
13:05～13:30	発表に対する質疑応答（事前の質問に対する発表者からの回答）
13:30～13:45	発表に対する助言者指導講評
13:45～13:50	指導助言に対する質疑応答（チャットを利用して）
13:50～14:00	休憩
14:00～14:40	研究協議
14:40～14:55	助言者まとめ
14:55～15:00	諸連絡・閉会の言葉



第13分科会 UDトーク QRコード

10月9日（金）13：00－15：00〔配信会場：大宮ろう学園〕

第14分科会（発達障害を併せ有する聴覚障害児に対する支援）

【協議主題】

発達障害を併せ有する幼児児童生徒一人ひとりの特性に合った指導・支援の在り方

【主題設定の理由】

知的障害を伴わないいわゆる発達障害(限局性学習障害、ADHD、自閉症スペクトラム障害)を併せ有する子どもは、ろう学校においてその占める割合は高いといわれる。これまで、聴覚障害の中で、見過ごされがちだった発達障害の側面をクローズアップすることで、なかなか指導効果のあげられなかった事例について、子どもの実態を捉え直し、将来にわたって生き難さを軽減するための指導・支援について研究する。

助言者	東京学芸大学 教授 濱田 豊彦 氏		
運営責任者 (司会)	埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園 (責任者) 小松 孝兆 (補佐) 秋山 幸一郎		
記録 (関聾研協力校)	群馬県立聾学校 水嶋 理絵 稲田 佳史		
Zoom担当	川島 祐太 野村 将也 森本 真敏		
情報保障	あり	UDトーク	石井 達治 黒須 浩一 畑崎 勝 江原 健次

発表順	① 大阪府立生野聴覚支援学校 森本朱音 多動傾向があるA児への支援 視覚支援を活用した人との関係づくり
討議の柱	① 発達障害を併せ有する児童生徒に対する個別的支援の在り方 ② 学校体制下における指導・支援の工夫と教材教具の工夫、特徴的な取り組み

進行 **レポート発表は事前オンデマンド配信を視聴願います。**

時 間	内 容
12:30～13:00	受付
13:00～13:05	開会の挨拶、助言者・司会・記録等紹介、諸連絡、進行の説明
13:05～13:20	レポート発表に対する補足説明 質疑応答
13:20～14:15	各校の実践報告
14:15～14:25	休憩
14:25～14:55	助言者による指導講評、まとめ
14:55～15:00	諸連絡・閉会の言葉



第14分科会 UDトーク QRコード

6 記念講演 【10月9日（金）15：30～17：00】

- (1) 演 題 「ろう教育で大ボラを吹く」
(2) 講 師 濱田 豊彦 氏（東京学芸大学 教授）

《講師紹介》

東京学芸大学副学長、教育学部 特別支援科学講座 教授、言語聴覚士
聴覚障害児の音韻・韻律の獲得、発達障害のある聴覚障害児の評価と指導、言語獲得に聴覚障害が及ぼす影響等、専門的な研究を進めると共に、聴覚障害教育支援大塚クラブの代表、聴覚障害児のための新しい支援施設の設定を目指す「聴覚障害児の会」の代表を務められるなど、幅広く実践や取組に実際に携わり聴覚障害児の可能性を広げるべく多方面で活躍している。

- ① あらかじめZoomの事前登録をお願いします。複数台で視聴される場合は、視聴される機器ごとに異なるアドレスでの登録をお願いいたします。
- ② 講演中、Zoomのチャット機能を利用し講演内容に対する質問や意見を送信することができます。（16：40まで受付）
- ③ 16：45～17：00まで、講師が質問意見に対して回答します。また講演動画及び質疑応答の内容は、後日大会ホームページに掲載する予定です。掲載しましたら大会事務局よりメールでお知らせいたします。



記念講演UDトーク用QRコード
(質疑応答部分のみ、使用できます)

7 第55回全日本聾教育研究大会（島根大会）のご案内

大会名称	第55回全日本聾教育研究大会（島根大会）
会 期	令和3年10月14日（木）・15日（金）
主 管 校	島根県立松江ろう学校
紹介URL	https://www.zennichiro.jp/shimane.html 埼玉大会ホームページに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

8 埼玉大会事務局からのお願い

埼玉大会までに

- (1) 大会当日使用される機器の接続確認をお願いいたします。当日のスムーズな進行のためにご協力ください。事前に校内でZoom接続を試みるなど、相手側に聞こえるマイクの調整、聞き取りやすいスピーカーの調整をしておいてください。また、大会当日にご自身で調整できるよう、調整方法を確認しておいてください。
- (2) Zoomの操作に不安がある場合は、大会ホームページの参加者メニューの中にある「Zoomの使い方説明動画（手話付き）」をご視聴ください。
- (3) 分科会での発言される際、UDトークをご利用いただくと音声変換がスムーズになります。UDトークアプリを事前にダウンロードいただける方はご協力をお願いします。大会要項内の各分科会詳細ページには、当日UDトークアプリ内で使用できるQRコードを掲載しております。
- (4) 分科会は、予定時刻に必ず開始いたしますので皆様のご協力をお願いいたします。
- (5) 分科会の開始時刻に間に合わず途中から参加される場合は、必ず、ビデオオフ・マイクオフでの参加をお願いいたします。予め遅れることが予想される場合は、Zoomアプリ内にある「設定」から「ビデオオフで参加」にチェックを入れておいてください。当日参加する際、「ビデオ付きで参加する」の画面が表示された場合はチェックを外して入室していただくことも忘れずをお願いいたします。

埼玉大会当日・分科会参加の時

- (1) Zoomには接続台数の上限がございます。1つの分科会に接続する機器は、視聴機器台数調査で回答いただいた台数を超えないようお願いいたします。
- (2) 各分科会の司会からの注意事項に従って、質問、意見など発言をお願いします。
- (3) UDトークアプリのダウンロードを済ませている方は、発言の際、UDトークの発話ボタン（「タップして話す」が書かれている赤いボタン）を押し、区切り良く話していただけるようお願いいたします。
- (4) 分科会の録画やスクリーンショット等の撮影をすることは、個人情報保護の観点から決して行わないようお願いいたします。後日大会ホームページに参考写真を掲載いたします。
- (5) 事前登録の際、漢字の文字数制限でお名前登録を簡略化された方は、入室後「分かりやすい学校名」＋「代表者の名字」に修正していただきますようお願いいたします。
- (6) Zoom画面上で字幕表示を行いますが、表示できる行数に限りがあるため、誤変換修正を行っても、Zoom画面上に表示されないことがございます。文字情報を希望される方は、UDトーク画面を別の端末で開いていただくことをお勧めします。
- (7) 各分科会は、記録のためすべて録画しております。大会終了後、オンデマンド配信の際発言されている皆様の様子が映ることもございます。予めご了承ください。
- (8) 在勤公署で、同じ時間帯に複数の分科会に参加される場合は、ハウリング等音声トラブルを避けるため、それぞれ別の部屋で視聴していただくようお願いいたします。

埼玉大会当日・記念講演の時

- (1) 記念講演の配信方法は、ZoomおよびYouTubeとなります。Zoomで映像がスムーズに見られない場合は、YouTubeもご利用ください。大会前に、YouTubeのURLを参加者宛にメールで送信いたします。
- (2) 記念講演のZoom配信は「ウェビナー形式」となります。分科会とは異なり、参加者のビデオ画面表示はありませんので予めご了承ください。講演内容にかかわるご質問は、当日Zoomのチャット機能を使ってお受けいたします。YouTubeのチャット機能は使用いたしません。

埼玉大会終了後

- (1) 初めてのWeb開催ということで、大会終了後アンケートを配信いたしますので、忌憚のないご意見をお寄せください。また、大会当日実際何名の方が参加されたのか視聴者数も集計いたしますので、回答にご協力をお願いいたします。GoogleフォームおよびWord形式にて、メールで送信いたします。
- (2) 各分科会のオンデマンド配信は、ダイジェスト版を後日掲載いたします。大会終了後準備ができ次第の配信となりますのでご了承ください。準備が整いましたら、参加申し込みいただいた分科会の視聴パスワードを大会事務局よりメールでお知らせいたします。
- (3) 記念講演は大会終了後、講演部分につきましてはフルバージョンでオンデマンド配信いたします。大会ホームページ参加者メニューに掲載しましたら、大会事務局よりメールでお知らせいたします。

全体を通じて

- (1) 各分科会および記念講演のZoom事前登録用URLをお送りしております。事前登録をされると自動で大会当日参加できるZoomのURLが送信されます。自動送信メールに記載されているメールアドレスは、大会当日のZoom操作担当者のアドレスとなっております。大会事務局員ではありませんので、そちらにお問い合わせすることは控えていただきますよう、重ねてお願いいたします。
- (2) 事前登録完了後、自動送信されたメールに記載されている、大会当日のZoomURLにログイン(「こちらをクリックして参加」)されると、大会事務局にログイン通知が届き、録画が開始されております。接続確認されている方のお顔が録画されて事務局に届いてしまうので、Zoomの事前練習をされたい場合は、別途ご自身で「新規ミーティング」を開いていただき、操作確認等行っていただきますようお願いいたします。
- (3) 大会参加申し込み受付は終了しております。追加の申し込みおよび変更はお受けすることができませんのでご了承ください。
- (4) 分科会に参加される方は、授業動画およびレポート発表動画を必ず大会前に視聴していただき、ご参加ください。大会当日の動画視聴は行いません。
- (5) 大会がスムーズに、なおかつ安全に運営できますよう、事前の準備及び視聴のマナーにご協力くださいますよう、お願いいたします。

9 参加者数一覧

(1) 授業研究分科会

分科会名	人数	分科会名	人数
幼稚園部	233	重複部	111
小学部	309	寄宿部	92
中学部	170	特定しない	45
高等部	193	未定	35
専攻科	21	参加者合計 (人)	1209

(2) 研究協議分科会

分科会名	人数	発表数	分科会	人数	発表数
①早期教育Ⅰ(乳幼児)	145	5	⑨自立活動Ⅱ(聴覚活用、 発音・発語指導、 補聴機器)	74	2
②早期教育Ⅱ(幼稚園部)	157	2	⑩重複障害教育	93	1
③教科学習と学ぶ力 (小学部)	135	6	⑪寄宿舎教育	89	2
④教科学習(中・高文系)	120	3	⑫キャリア教育・ 卒業後の進路	67	2
⑤教科学習(中・高理系)	87	2	⑬関係諸機関との 連携、センター的機能	60	5
⑥教科学習(実技系)	46	3	⑭発達障害を併せ有する 聴覚障害児に対する 支援	110	1
⑦言語力向上	152	4	特定しない・その他	58	0
⑧自立活動Ⅰ (障害認識・コミュニケーション)	120	3	未定	55	0
参加者合計(人)				1,568	41

10 来賓・助言者・参加校等一覧

来賓

所属・職名	氏名
文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 特別支援教育調査官	庄司 美千代様
埼玉県教育局市町村支援部参事	金子 功 様
埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課長	竹井 彰彦様
埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課 主幹兼主任指導主事	楠奥 佳二様
埼玉県教育局県立学校部特別支援教育課 主任指導主事	原子 一彦様

助言者

東京学芸大学副学長	濱田 豊彦氏
信州大学教職支援センター教授	庄司 和史氏
公益財団法人聴覚障害者教育福祉協会事務局長	松本 末男氏
筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター 教授	長南 浩人氏
大阪ろう難聴就労支援センター理事長	前田 浩氏
筑波技術大学障害者高等教育研究支援センター 准教授	脇中 起余子氏
帝京平成大学現代ライフ学部児童学科 小学校特別支援コース教授	藤本 裕人氏
金沢大学人間社会研究域学校教育系教授	武居 渡氏
亜細亜大学障がい学生修学支援室 支援コーディネーター 客員准教授	橋本 一郎氏
同志社大学免許資格課程センター准教授	中瀬 浩一氏
宮城教育大学教育学部特別支援教育講座教授	菅井 裕行氏
国学院大学講師 浦和大学講師 東京愛育金町学園児童指導員	森本 行雄氏
公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構 東京聴覚障害者支援事業所所長	矢野 耕二氏
大阪教育大学教育学部教員養成課程 特別支援教育講座教授	井坂 行男氏
元筑波技術大学准教授	新井 孝昭氏
宮城教育大学教育学部特別支援教育講座 聴覚・言語障害教育コース准教授	松崎 丈氏
一般社団法人 日本聴覚障害ソーシャルワーカー協会副会長	舘脇 千春氏

参加校等一覧【授業研究分科会】

	参加校及び機関名	①幼稚園部	②小学部	③中学部	④高等部	⑤専攻科	⑥重複部	⑦寄宿部
1	北海道高等聾学校				○	○		○
2	北海道札幌聾学校		○					
3	北海道函館聾学校	○	○	○				
4	北海道旭川聾学校	○	○	○			○	
5	北海道室蘭聾学校		○				○	
6	北海道帯広聾学校	○	○	○				
7	青森県立青森聾学校	○	○		○			○
8	青森県立八戸聾学校		○				○	
9	青森県立弘前聾学校	○	○					
10	岩手県立盛岡聴覚支援学校	○					○	
11	宮城県立聴覚支援学校				○			
12	秋田県立聴覚支援学校		○	○				
13	山形県立山形聾学校		○		○			
14	山形県立酒田特別支援学校		○				○	
15	福島県立聴覚支援学校			○	○			○
16	福島県立聴覚支援学校 福島校	○	○					
17	福島県立聴覚支援学校 平校	○						
18	福島県立聴覚支援学校 会津校		○					
19	茨城県立水戸聾学校	○	○	○	○			○
20	茨城県立霞ヶ浦聾学校	○	○	○				
21	栃木県立聾学校	○	○	○	○		○	
22	群馬県立聾学校	○	○	○	○	○	○	○
23	埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園	○	○	○	○	○	○	○
24	埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園	○	○	○	○	○	○	○
25	千葉県立千葉聾学校	○	○	○	○	○	○	○
26	筑波大学附属 聴覚特別支援学校	○	○	○	○	○		○
27	東京都立大塚ろう学校	○	○					
28	東京都立大塚ろう学校 城東分教室		○					
29	東京都立立川ろう学校	○	○	○	○	○	○	
30	東京都立葛飾ろう学校	○	○	○	○		○	
31	東京都立中央ろう学校			○	○			
32	日本聾話学校		○	○			○	
33	明晴学園			○				
34	神奈川県立平塚ろう学校	○	○	○	○	○	○	○
35	横浜市立ろう特別支援学校	○	○		○		○	
36	川崎市立聾学校	○	○	○	○			
37	横須賀市立ろう学校	○	○					
38	神奈川県立相模原中央支援学校	○	○	○			○	

	参加校及び機関名	①幼稚園部	②小学部	③中学部	④高等部	⑤専攻科	⑥重複部	⑦寄宿部
39	新潟県立新潟聾学校	○	○	○	○		○	○
40	新潟県立長岡聾学校	○	○	○	○	○	○	○
41	山梨県立ろう学校	○	○	○	○		○	○
42	石川県立ろう学校	○	○	○	○			○
43	福井県立ろう学校	○	○	○	○			○
44	富山県立富山聴覚総合支援学校	○	○	○	○			
45	富山県立高岡聴覚総合支援学校	○		○				
46	長野県長野ろう学校	○						○
47	長野県松本ろう学校	○	○	○	○			○
48	岐阜県立岐阜聾学校	○	○				○	
49	静岡県立静岡聴覚特別支援学校	○	○	○				
50	静岡県立沼津聴覚特別支援学校	○	○		○			○
51	静岡県立浜松聴覚特別支援学校	○	○	○			○	○
52	愛知県立名古屋聾学校				○			○
53	愛知県立千種聾学校	○	○					
54	愛知県立岡崎聾学校	○			○			
55	愛知県立豊橋聾学校	○	○	○				
56	愛知県立一宮聾学校				○			
57	三重県立聾学校		○	○	○		○	○
58	滋賀県立聾話学校							
59	京都府立聾学校	○	○	○	○			
60	京都府立聾学校 舞鶴分校						○	
61	大阪府立中央聴覚支援学校		○	○			○	
62	大阪府立生野聴覚支援学校	○	○	○				
63	大阪府立堺聴覚支援学校	○	○	○	○	○	○	
64	大阪府立だいせん聴覚高等支援学校				○			
65	兵庫県立神戸聴覚特別支援学校		○	○			○	
66	兵庫県立姫路聴覚特別支援学校	○	○	○	○	○	○	○
67	兵庫県立豊岡聴覚特別支援学校						○	○
68	兵庫県立こぼと聴覚特別支援学校	○						
69	奈良県立ろう学校	○	○	○	○		○	○
70	和歌山県立和歌山ろう学校	○	○	○	○	○	○	○
71	鳥取県立鳥取聾学校		○					
72	鳥取県立鳥取聾学校 ひまわり分校	○	○	○			○	
73	島根県立松江ろう学校	○	○	○	○		○	○
74	島根県立浜田ろう学校						○	
75	岡山県立岡山聾学校	○	○	○	○			○
76	広島県立広島南特別支援学校	○	○					
77	広島県立尾道特別支援学校	○	○					○

	参加校及び機関名	①幼稚園部	②小学部	③中学部	④高等部	⑤専攻科	⑥重複部	⑦寄宿部
78	広島県立呉南特別支援学校	○	○	○				
79	山口県立下関南総合支援学校		○	○	○		○	
80	山口県立山口南総合支援学校	○	○					
81	徳島県立徳島聴覚支援学校	○	○	○	○		○	○
82	香川県立聾学校	○	○	○	○		○	○
83	愛媛県立松山聾学校	○	○	○	○		○	○
84	愛媛県立宇和特別支援学校 (聴覚障がい部門)	○						
85	高知県立高知ろう学校	○	○	○	○		○	○
86	福岡県立福岡聴覚特別支援学校	○	○	○				
87	福岡県立久留米聴覚特別支援学校	○	○	○				
88	福岡県立小倉聴覚特別支援学校	○	○				○	
89	福岡県立福岡高等聴覚特別支援学校				○		○	
90	福岡県立直方特別支援学校	○	○	○			○	
91	佐賀県立ろう学校	○	○	○	○		○	○
92	長崎県立ろう学校		○		○			
93	熊本県立熊本聾学校	○	○	○	○	○	○	○
94	大分県立聾学校	○	○	○	○			○
95	宮崎県立都城さくら聴覚支援学校	○	○	○	○	○	○	○
96	宮崎県立延岡しろやま支援学校	○	○				○	○
97	鹿児島県立鹿児島聾学校	○	○	○	○	○	○	
98	沖縄県立沖縄ろう学校	○	○	○	○		○	○
99	北海道大学	○						
100	宇都宮大学						○	
101	宇都宮大学						○	
102	宇都宮大学						○	
103	筑波技術大学	○						
104	筑波技術大学			○				
105	筑波技術大学				○			
106	筑波技術大学	○						
107	東京学芸大学		○					
108	東京学芸大学		○					
109	慶應義塾大学		○					
110	帝京平成大学				○			
111	大阪教育大学		○					
112	川崎医療福祉大学	○						
113	香川大学	○						
114	愛媛大学		○					
115	愛媛大学	○						
116	九州大学			○				

	参加校及び機関名	①幼稚部	②小学部	③中学部	④高等部	⑤専攻科	⑥重複部	⑦寄宿部
117	九州産業大学		○					
118	新潟市立巻南小学校難聴通級指導教室		○					
119	埼玉県聴覚障害者協会						○	
120	個人参加	○						
121	個人参加	○						

参加校等一覧【研究協議分科会】

	参加校及び機関名	①乳幼児	②幼稚園	③小学部	④文系	⑤理系	⑥実技系	⑦言語力	⑧自立Ⅰ	⑨自立Ⅱ	⑩重複	⑪寄宿舎	⑫キャリア	⑬センター	⑭発達
1	北海道高等聾学校					○	○					○			
2	北海道札幌聾学校	○		○											
3	北海道函館聾学校	○	○	○	○	○		○							
4	北海道旭川聾学校	○	○	○				○	○	○	○				○
5	北海道室蘭聾学校	○			○										
6	北海道帯広聾学校	○	○	○	○		○		○	○					
7	青森県立青森聾学校			○	○		○	○				○			
8	青森県立八戸聾学校			○					○						
9	青森県立弘前聾学校		○	○						○					
10	岩手県立盛岡聴覚支援学校	○	○								○				○
11	宮城県立聴覚支援学校												○		
12	秋田県立聴覚支援学校	○				○		○	○						
13	山形県立山形聾学校					○		○							
14	山形県立酒田特別支援学校														
15	福島県立聴覚支援学校					○	○		○			○	○		○
16	福島県立聴覚支援学校 福島校		○	○											
17	福島県立聴覚支援学校 平校	○	○					○							
18	福島県立聴覚支援学校 会津校			○				○							
19	茨城県立水戸聾学校	○		○	○	○					○	○	○		○
20	茨城県立霞ヶ浦聾学校	○	○		○										
21	栃木県立聾学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
22	群馬県立聾学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
23	埼玉県立特別支援学校 大宮ろう学園	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	埼玉県立特別支援学校 坂戸ろう学園	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
25	千葉県立千葉聾学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
26	筑波大学附属 聴覚特別支援学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	
27	東京都立大塚ろう学校	○		○											
28	東京都立大塚ろう学校 城東分教室			○											
29	東京都立立川ろう学校	○		○	○	○	○	○	○		○				○
30	東京都立葛飾ろう学校		○			○	○			○	○			○	
31	東京都立中央ろう学校				○	○	○	○		○					○
32	日本聾話学校	○		○	○					○					
33	明晴学園	○						○							
34	神奈川県立平塚ろう学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
35	横浜市立ろう特別支援学校	○	○	○		○					○		○		○

	参加校及び機関名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
36	川崎市立聾学校	○	○	○				○	○		○		○	○	
37	横須賀市立ろう学校		○					○			○				
38	神奈川県立 相模原中央支援学校		○	○	○				○		○		○		
39	新潟県立新潟聾学校	○	○	○	○	○		○	○		○	○		○	○
40	新潟県立長岡聾学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○		○
41	山梨県立ろう学校	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○			○
42	石川県立ろう学校	○	○		○		○	○							
43	福井県立ろう学校	○	○	○	○	○	○			○		○	○		○
44	富山県立 富山聴覚総合支援学校	○				○							○		
45	富山県立 高岡聴覚総合支援学校	○	○					○	○						
46	長野県長野ろう学校	○	○					○				○		○	
47	長野県松本ろう学校	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○		
48	岐阜県立岐阜聾学校	○	○		○			○	○		○				
49	静岡県立 静岡聴覚特別支援学校	○	○	○	○	○		○	○	○	○			○	○
50	静岡県立 沼津聴覚特別支援学校				○	○			○			○			
51	静岡県立 浜松聴覚特別支援学校		○	○	○							○			○
52	愛知県立名古屋聾学校					○	○								
53	愛知県立千種聾学校		○	○											
54	愛知県立岡崎聾学校		○		○										
55	愛知県立豊橋聾学校		○	○		○					○	○			
56	愛知県立一宮聾学校				○										
57	三重県立聾学校	○		○		○		○	○		○		○	○	○
58	滋賀県立聾話学校								○						
59	京都府立聾学校	○		○	○	○									
60	京都府立聾学校 舞鶴分校										○				○
61	大阪府立中央聴覚支援学校				○					○					
62	大阪府立生野聴覚支援学校	○	○	○					○					○	○
63	大阪府立堺聴覚支援学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
64	大阪府立 だいせん聴覚高等支援学校					○		○					○		
65	兵庫県立 神戸聴覚特別支援学校														
66	兵庫県立 姫路聴覚特別支援学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
67	兵庫県立 豊岡聴覚特別支援学校								○		○		○		○
68	兵庫県立 こばと聴覚特別支援学校	○	○							○				○	
69	奈良県立ろう学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
70	和歌山県立和歌山ろう学校	○	○	○	○	○		○	○			○	○		○
71	鳥取県立鳥取聾学校	○							○					○	
72	鳥取県立鳥取聾学校 ひまわり分校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○
73	島根県立松江ろう学校	○	○	○	○				○		○	○		○	

	参加校及び機関名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
74	島根県立浜田ろう学校								○					○	
75	岡山県立岡山聾学校	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○
76	広島県立広島南特別支援学校	○	○	○											
77	広島県立尾道特別支援学校	○	○	○	○	○		○	○	○	○		○	○	○
78	広島県立呉南特別支援学校	○	○	○	○										○
79	山口県立下関南総合支援学校	○	○	○		○		○	○	○	○				
80	山口県立山口南総合支援学校	○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○
81	徳島県立徳島聴覚支援学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
82	香川県立聾学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
83	愛媛県立松山聾学校	○		○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
84	愛媛県立宇和特別支援学校 (聴覚障がい部門)	○													
85	高知県立高知ろう学校	○	○	○	○	○					○	○			○
86	福岡県立 福岡聴覚特別支援学校		○	○	○			○							
87	福岡県立 久留米聴覚特別支援学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○
88	福岡県立 小倉聴覚特別支援学校	○	○	○			○	○		○					○
89	福岡県立 福岡高等聴覚特別支援学校				○	○			○	○	○			○	
90	福岡県立直方特別支援学校		○	○				○	○	○	○				○
91	佐賀県立ろう学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
92	長崎県立ろう学校								○						○
93	熊本県立熊本聾学校	○	○	○	○	○		○	○		○	○	○	○	○
94	大分県立聾学校		○	○	○	○		○	○	○	○	○			
95	宮崎県立 都城さくら聴覚支援学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
96	宮崎県立 延岡しろやま支援学校	○	○	○				○	○	○	○	○	○	○	○
97	鹿児島県立鹿児島聾学校	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
98	沖縄県立沖縄ろう学校	○	○	○	○			○				○		○	
99	北海道大学	○													
100	東北大学														
101	宇都宮大学									○	○				
102	宇都宮大学						○				○				
103	宇都宮大学		○								○				
104	筑波技術大学														
105	筑波技術大学							○	○						
106	筑波技術大学					○									
107	筑波技術大学														
108	筑波技術大学		○												
109	東京学芸大学														○

	参加校及び機関名	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭
110	東京学芸大学							○							
111	慶應義塾大学									○					
112	大阪教育大学									○					
113	川崎医療福祉大学									○					
114	香川大学	○	○												
115	愛媛大学														
116	愛媛大学									○					
117	九州大学					○									
118	九州産業大学							○							
119	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究 所														○
120	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究 所														○
121	独立行政法人 国立特別支援教育総合研究 所														○
122	沖縄県総合教育センター														○
123	埼玉県聴覚障害者協会													○	
124	埼玉県聴覚障害者協会										○				
125	新潟市立巻南小学校 難聴通級指導教室			○											
126	愛知県立港特別支援学校									○					
127	株式会社フィート									○					
128	個人参加		○												
129	個人参加	○	○												

1 1 大会役員一覧

令和2年度全日本聾教育研究会役員

会 長	鹿嶋 浩	(愛知県立岡崎聾学校)
副 会 長	桑原 智子	(埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園)
副 会 長	福島 朗博	(島根県立松江ろう学校)
副 会 長	伊藤 僚幸	(筑波大学附属聴覚特別支援学校)
常任理事	室岡 弘明	(北海道高等聾学校)
〃	中谷えり子	(青森県立青森聾学校)
〃	佐藤 幸三	(長野県松本ろう学校)
〃	川腰 清恵	(富山県立富山聴覚総合支援学校)
〃	大脇 千尋	(愛知県立一宮聾学校)
〃	山中 俊和	(奈良県立ろう学校)
〃	平野 謙二	(島根県立浜田ろう学校)
〃	北村 公良	(高知県立高知ろう学校)
〃	苅谷 勇次	(福岡県立小倉聴覚特別支援学校)
〃	毛利めぐみ	(埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園)
〃	安部 泰尊	(島根県立松江ろう学校)
〃	橋本 時浩	(筑波大学附属聴覚特別支援学校)
理 事	須見 千慶	(北海道札幌聾学校)
〃	三浦 康宏	(宮城県立聴覚支援学校)
〃	澤 あや子	(東京都立立川ろう学校)
〃	道元 唯子	(富山県立富山聴覚総合支援学校)
〃	渡邊 美夏	(愛知県立一宮聾学校)
〃	山本 明子	(奈良県立ろう学校)
〃	石井 敦子	(岡山県立岡山聾学校)
〃	名山 優	(徳島県立徳島聴覚支援学校)
〃	荒武 邦好	(宮崎県立都城さくら聴覚支援学校)
監 査	鈴木 実	(日本聾話学校)
〃	川嶋富美子	(兵庫県立こばと聴覚特別支援学校)
顧 問	鄭 仁豪	(前会長)
事務局長	橋本 時浩	(筑波大学附属聴覚特別支援学校)
事務局次長	石井 清一	(筑波大学附属聴覚特別支援学校)

第54回全日本聾教育研究大会(埼玉大会)

実行委員長	桑原 智子	(埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園)
副実行委員長	原田 篤	(埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園)
大会実行委員	佐藤 幸三	(長野県松本ろう学校)
〃	中村 尚哉	(埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園)
〃	棚田 茂	(埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園)
〃	澤 あや子	(東京都立立川ろう学校)
事務局長	毛利めぐみ	(埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園)
事務局次長	田中 清之	(埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園)
〃	河瀬 顕	(埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園)
事務局員	吉備 豊	(埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園)
〃	廣瀬 彩奈	(埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園)
〃	森本 有加	(埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園)
〃	清野菜穂子	(埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園)
〃	川畑 賢司	(埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園)
〃	諏訪部沙姫	(埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園)
〃	後藤 優	(埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園)
監 事	橋本 真澄	(埼玉県立特別支援学校大宮ろう学園)
〃	大谷 正司	(埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園)

Web開催アドバイザー

北海道高等聾学校教諭 桑原 一哲 様
 筑波技術大学准教授 河野 純大 様
 東北大学准教授 川崎 聡大 様
 (株)情報通信総合研究所 平井 聡一郎 様

心より感謝申し上げます。

埼玉大会事務局一同